



母の日はどうしてカーネーションをおくるの

母を亡くした教師のアイデア

アンナは、アメリカのフィラデルフィアで教師をしていましたが、最初に父を、次に最愛の母を亡くしました。1907年（明治40年）5月の、第二日曜日の母親の命日に、友だちをまねいて、毎年、国中で母の日を祝うというアイデアを提案したのです。これには、お友だち全員が大賛成でした。これがきっかけとなって、アメリカはもちろん、世界中で5月の第二日曜日を、母の日として祝うことになったのです。

母のいるいないで、白と赤のカーネーション

アンナは白いカーネーションを持って、母親をしのぶために教会にお参りしました。カーネーションというのは、キリスト教では、母親が落とした涙のあとに生えた花だと考えられ、母親が愛情をそそいだものだといわれていたからです。

このことから、母親がいない人は白いカーネーションを、母親がまだ元気な人は、赤いカーネーションを母親におくるという習かんができたようです。（監修・保岡 孝之）

